

「農業共済新聞」 2003年1月1日号

農業共済新聞は2003年の新年号の14面と15面に「再考 土： 生命をはぐくむ大地を科学する」という特集記事を掲載した。その一部として、「土の絵本」を紹介し、5巻の表紙の写真とともに、下記の記事を掲載した。

土って何なの： 土はだれが作ったものか

地球に広がる土壌は最初からあったわけではなく、「作られてきた」という方が正しい。太陽や雨、風が、岩石や石を風化させ、特殊な微生物が石を溶かし細かく砕いていく。コケ類などが生えて光合成で有機物を作り、これが腐食物になり堆積して土となっていく。

しかし今、人間の施肥などで、石灰や苦土、カリなどの蓄積傾向が見られ、土性が変化。今後は人間が土を変える要因となるという。「土壌の生成」について解説する書物は多いが、「土の絵本-④土がつくる風景」(日本土壌学会編、農山漁村文化協会)=写真=は、だれにも分かりやすく説明している。

平凡社「別冊太陽」： かがくする心の絵本 100

平凡社の「別冊太陽」はこれまでに特定トピックスの特集号を多数発行している。2002年冬号(2003年1月発行)で、「かがくするこころの絵本 100」を特集し、最近刊行された優れた絵本 100冊を紹介している。そのなかの1冊として「土の絵本、1巻土と遊ぼう」が取り上げられた。1巻の表紙と中味の一部がカラー画像で紹介されている。紹介記事を画像で紹介する。

